

「不可解な漏電!? 漏電個所はどこか？」

丹南営業所 澤本 紀夫

ある日の夕方、A小学校より「2階が停電している」と連絡が入り、早速伺いました。

現場に到着し2階にある電灯分電盤を確認すると、漏電遮断器が切れていました。絶縁抵抗測定を実施したところ、絶縁抵抗値は良好です。教室や廊下に異常はないか外観点検も行いましたが、問題はありません。また、先生方に何か変わったことはなかったかお聞きしましたが、「心当たりはない」との返答でした。原因が特定できないまま漏電遮断器を投入し、通電後も異常は見当たらないため、様子を見ていただくようお願いし帰社しました。

数日後「また、2階が停電している」と連絡が入り、学校へ急行しました。再度、外観点検と絶縁抵抗測定を実施しましたが、前回同様異常は見当たりません。漏電個所を特定調査するための記録計を取り付け、再度様子を見ていただくようお願いしました。

それから3日後、「今度は体育館が停電している」と連絡が入りました。漏電調査中に別の箇所でも故障が発生するなんて珍しいこともあるな、と思いながら車を走らせました。今回は体育館にある電灯分電盤の漏電遮断器が切れていました。絶縁抵抗測定を実施しましたが、異常はありません。今回で3回目の出動です。これは何かあると思い、職員の皆さまに問診を行いました。すると、用務員さんが「最近、掃除機の調子が悪くて、途中で止まることがあり困っている」とのこと。早速現品を確認したところ、コードの一部が損傷し、導線がむき出しになっていました。この状態では掃除機の使用中にむき出しになった導線が地面に接触した時のみ漏電します。漏電の発生が不定期で、その発生箇所が変わったのは、この掃除機を校舎内で持ち歩き使用していたことが原因だったのです。

今回の例は通電中に導線を手で触れていたなら、感電していたかもしれない危険な事例です。コードの損傷は、決して珍しいことではありませんので、機器の使用前には必ずコードの状態についてご確認をお願いいたします。

また、今回の様に異常発生時の状況や気になることをお客さまにお聞かせいただく事で、故障原因の発見に繋がる場合があります。異常の早期発見のためにも、普段より電気について気になることがありましたら、ご相談くださいますようお願いいたします。

